

校友会誌



平成21年3月9日

発行

名古屋工学院専門学校校友会

名古屋市熱田区神宮四丁目 7-21

URL: <http://www.denpa.ac.jp/>

<第50号>

「祝す。かもめ50号」

会長 倉田 豊行

わが同窓会誌は、昭和29年7月に創刊されました。当時は、船舶通信士を目指して入学する学生が多く、大望を果たして勇躍歓喜、船舶に乗船する者が大半でした。このような理由から初代同窓会長、西田眞人先生により、同窓会誌は「鷗」と命名されましたが「鷗」は、堅い感があったので後にひらがなの「かもめ」と改められました。本題字の「かもめ」は、掛布知伸先生がマツチ棒を歯で噛み砕き、それを筆として、執筆されたものです。昭和51年3月

に同窓会は校友会に併合されました。現在まで連綿と継承されて来た、この「校友会誌・かもめ」は「50号」を数え、本号は記念すべき発刊となりました。同窓会として発足した校友会も5万8千名余りの卒業生を有し西日本随一の学校となり、大きく発展しました。卒業生は公務員・企業人としてあらゆる分野で活躍し、社会に大いに貢献されています。

さらに、大きく発展することを望みたいと思います。原点を持つ人は強い。今後、本校が皆様方の心の原点となり、人生の冬にも消えぬ松明となつて、輝き続けることを念願しています。そして、本校の良き伝統と特色ある教育が卒業生から卒業生へ、次代へと受け継がれて、より良く生きるうえでの一助となることを望んでやみません。皆様方は使命ある人材（人材）です。お一人おひとりが大切な人材（人材）です。健康には、充分に留意されて所期の目標を達成されんことを心より、祈念いたしております。

「原点、そして進化へ」

校長 小川 明治

私たちを取り巻く世界経済の激変は今日、想定外のことであるといわれる程になっていきます。伝統的な理論上の予測モデルが逆説的に動き現実化しています。少し前まで、米国経済減速と分離できるかたちで安定成長を持続するデカップリング説、米国経済の減速に連動するというカップリング説という二つの視点からの論議がありました。現在、世界同時不況に対する懸念は、共通して意識されることでもあります。

また、為替はドル、ユーロなど諸国通貨に対して円高傾向にあり、企業業績が大きく左右される現況にあります。我が国産業の国際競争力が問われ、新しい分野の技術力と労働生産性が追究され、経済成長に向けたイノベーションの役割が増大してきます。今後我が国の教育は、必ず世界的な役割を担っていくものと確信します。人材育成、教育機関の役割は、今にも増して拡大していく必要があります。知的総合的なインフラ整備は、今こそ教育にあると思っております。

このような時代だからこそ、若かりし頃に抱いた情熱を継承していくことが重要かと思えます。「青雲の志」は、今若者に必要なたても大切な志気であり、本学園創立から50年以上の歳月を経て、百周年へ向けて未来を展望するとき、設立の時代背景を振り返りつつ、原点を見つめ、より進化していきたいと認識を新たにします。校友会の皆様におかれましては、かもめ創刊第50号という記念誌の巻頭言として掲載の機会をいただきましたこと、また並々ならぬ日頃のご支援に深く感謝申し上げます。申し上げる次第でございます。ますますのご発展とご活躍を祈念いたしますとともに、いつまでも本校を母校として親しみ、ご敬愛していただきたく宜しく願いたします。

『新入社員からのメッセージ』

電気工学研究科

平成20年3月卒業 鈴木 康士

名古屋工学院専門学校を卒業して、はや7ヶ月が経とうとしています。福井県敦賀市出身の私は、高校を卒業後、電験3種の取得を目指し工学院に入学をしました。寮に入り、ワクワク、ドキドキの学生生活が始まりました。資格取得も順調に進み、1年目は科目合格、そして2年目で目標を達成。現在は、北陸電気保安協会の福井支部に勤務しています。

今は、保安課の試験員という身分で、将来、検査員になるための実務経験を積んでいる最中です。

この実務経験の期間は、電験3種取得者の場合5年間になります。「え？5年も」と思われるかもしれませんが、この期間は、検査員（実際にお客様をもてる身分）になるための準備期間でもあるのです。

仕事の内容を詳しく書いても面白くないので協会に入ってから体験談を紹介します。

入社して、研修期間終了後の配属初日のことです。課長と先輩方と一緒に現場で仕事をするようになりました。課長に、「おい！このアースの補助極（杭）、田んぼんとこ打ってくれ」と、初仕事を頂いた私は早速田んぼに直行、無事に接地極

を打ち込むことが出来ました。しかし、泥沼のような田んぼに新品の作業靴が飲み込まれ、作業着も右ひざ下辺りまでまみれ、作業を終え、戻った私を待っていたのは先輩方の温かい笑い声でした。

事務所に戻ると、新入社員が田んぼに突っ込んだ。という話題が既に浸透していました。本来なら、恥ずかしがることでしょうか、このことがきつかけとなり、先輩方と話す機会を得ることができました。田舎って噂が広がるのが本当に早いです。

入社して7ヶ月。いろいろな経験から失敗を恐れず、謙虚な気持ちで仕事に向き合うことが大切であることを学びました。勿論、許されない失敗もあります。

電気の仕事では、高圧が生きている状態での作業もありますので、取り返しのつかない事故にもなりかねません。試験機かの操作がわからなくて先輩に怒鳴られたこともあります。でも、そうやって一つひとつ教えられ、覚えていくものだと思っています。

卒業を控えた皆さん。4月からのことを思うと、不安な気持ちにもなるでしょうが、自分は何もわからないのでゼロから教えてください」という気構えさえあれば新入社員としていいスタートが切れると思います。

『PC8801って知ってる？』

情報学科 松本 英晃

私が初めてパソコンを買ったのは、確か高校一年生の時でした。約20年前です。買った機種は、NECのPC8801という機種で、中古の本体+ディスプレイで2万円だったと思います。通販で買ったのですが、届いた段ボールを開け、プチプチにくるまれていた本体を取り出した時のワクワク感は、今でも思い出されます。

このPC、ハードディスクなんて素晴らしいものは当然積んでいません。当社のパソコンは、フロッピーディスクから起動するのが当たり前であったのですが、こいつにはフロッピードライブも付いていませんでした。データの読み込みは何と、カセットテープで行うのです。カセットテープから読み込む装置を「データレコーダ」といい、1つのソフトを読み込むのに10分ちよつとかかっています。

主な使用目的は、今のガキも当時のガキも変わらず、当然の事ながらゲームです。

「データレコーダから読み込みを開始し、もつすく完了だ！」と、心躍らせて待っているとき、「ピー」というエラー音もつ一度やり直し……。当時は、もつー……！

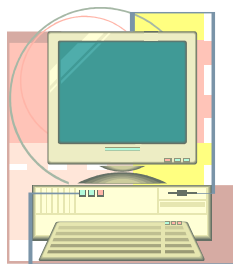
と書いていましたが、今思えば楽しい出来事でした。

プログラム作成も、こいつでやったのが初体験でした。雑誌に載っていたサンプルプログラムを入力し、エラーを出しまくって修正し、完成した時の嬉しかったことといったら感動ものです。

そんなヤツだったから愛着が湧いてくる。高校を卒業するまで大切に使用しました。今、授業で教えているプログラミングの基礎は、こいつのお陰で出来たのかもしれません。

あれから約20年。パソコンの機能はスゴイものになっています。これから社会に出て行く皆さんの活躍が、もつとスゴイものにしてくれる。

今から20年後、「20年前はこんな不便なパソコンだったんだぞー」という話にきつとなるでしょう。



校友会事業経過報告

平成十九年度

年月日	事業内容
19・5・23	校友会常任役員会 開催
19・6・23	校友会支部長総会 開催
19・7・23	校友会メールマガジン 【かもめ〜ル】配信
19・11・9	校友会常任役員会 開催
19・11・14	校友会奨学生に 奨学金送付(9名)
19・12・6	校友会メールマガジン 【かもめ〜ル】配信
20・1・15	卒業生による 在校生への講話 株式会社アイエムリンク 社長 小出郁夫氏 (S55年電子計算機科卒)
20・1・26	校友会沖繩支部総会開催 (堀内、小林 出席)
20・2・29	校友会常任役員会 開催
20・3・8	校友会賞受賞者決定・授与 (24名)
20・3・8	校友会誌『かもめ』 第49号発刊
20・4・9	校友会誌『かもめ』 (1782通)發送

各支部長

および支部連絡先

東京支部長 新川 美浩	支部担当 池戸 博行
五十六年第一部電波通信科卒	i.keho@denpa.ac.jp
支部担当 小野 幸宏	ono@denpa.ac.jp
大阪支部長 田邊 和哉	支部担当 岩井 敬典
四十七年第一部電子計算機科卒	i.wat@denpa.ac.jp
支部担当 富山支部長 中島 光憲	支部担当 土肥 和紀
四十九年第一部テレビ技術科卒	oi@denpa.ac.jp
支部担当 石川支部長 坂本 守	支部担当 石黒 誠
五十二年第一部電子工学科卒	i.shi.gur.on@denpa.ac.jp
支部担当 福井支部長 山崎 利治	支部担当 松岡 昇
四十年第一部電気通信科卒 (活動休止中)	noboru.natsuka@denpa.ac.jp
支部担当 三重支部長 瀬崎 雄司	支部担当 下里 充
三十七年第一部電気通信科卒	shi.musat.o@denpa.ac.jp
支部担当 四国支部長 松浦 正昭	支部担当 高須 真人
三十四年第一部本科卒	takasu@denpa.ac.jp

沖繩支部長 上原 盛壽
四十九年第一部電波通信研究科卒
支部担当 堀内 豊
hori.uchi@denpa.ac.jp

支部担当連絡先
名古屋工業院専門学校
校友会各支部担当者
電話 052-881-1311(代)

二十八期校友会常任役員

会長	倉田 豊行
副会長	岩井 敬典
副書記	池戸 博行
書記	石黒 英一
會計	高須 真人
幹事長	坂田 和義
幹事	村岡 好久
幹事	井東 秀樹
幹事	根岸 雅巳
幹事	平岩 清
幹事	石黒 誠
幹事	加藤 穰治
幹事	杉村 博行
幹事	木下 幸弘
幹事	松岡 昇
幹事	神谷 裕之
會計監事	田中 和彦
會計監事	井藤 和弘
相談役	小川 明治
相談役	小川 優
参与	小川 孝

支部担当

東京支部	池戸 博行
大阪支部	小野 幸宏
三重支部	岩井 敬典
富山支部	下里 充
石川支部	土肥 和紀
福井支部	石黒 誠
四国支部	松岡 昇
沖繩支部	高須 真人
	堀内 豊

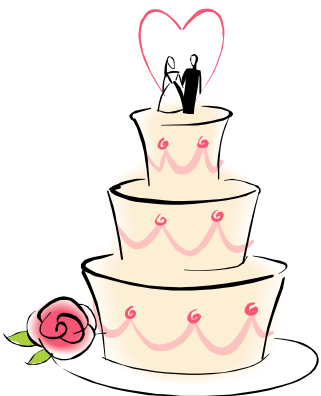
結婚おめでとう

いっしょに

昨年、ご祝宴を挙げられました卒業生を紹介させていただきます。心からお祝い申し上げます。

長尾 玄博さん

(平成9年3月・電波通信研究科卒)
平成20年10月25日 挙式・名古屋



平成 1 9 年度 校友会収支決算書 (一般会計の部)

収入の部 合計金額 19,769,710 円
 支出の部 合計金額 19,769,710 円

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	18,006,664	会誌発行費	328,196
校友会活動費	1,736,000	特別会計	0
預金利息	27,046	支部結成維持費	1,033,819
		講演会費	12,000
		援助費	15,000
		慶弔費	12,840
		備品消耗品費	0
		校友会賞費	83,790
		会議費	0
		会長交際費	30,765
		予備費	0
		次年度繰越金	18,253,300
合 計	19,769,710	合 計	19,769,710

平成 1 9 年度 校友会収支決算書 (特別会計の部)

奨学金特別会計

収入の部 合計金額 34,134,768 円
 支出の部 合計金額 34,134,768 円

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	5,127,752	奨学金貸付金	3,235,000
奨学金返金	543,520	貸付繰越金	20,534,560
一般会計から	0	通 信 費	10,000
預金利息	28,936	次年度繰越金	2,455,208
貸付繰越金	20,534,560	奨学基金	7,900,000
奨学基金	7,900,000		
合 計	34,134,768	合 計	34,134,768

学園あれこれ 二九

昨今の世の中の変化はめまぐるしい。

「変……」。なんか変、あの人変、変な人はいっぱいいるけれど。

生物は自然環境の変化に適応できたもののみが生き残り、人類は環境の変化の中でめざましい進化を遂げ、わが学園にも進化中？の人間がうごめいている。

ゲームCG分野に、ブログが開設されたと聞いて、早速覗いてみたら、いきなりターミネーターの真っ赤な目に捕捉された。かつて、ある映画のワンシーンの「君の瞳に乾杯」という台詞に感動したものだが、こちらはそうはいかない。映像の世界も変わったものだ。

コンピュータ分野にも、ブログがあつて、日々の変化が綴られている。さてこのERT分野の村瀬先生がなんとターミネーターと化した。

ドッジボールの全国大会に出場するために過酷な練習中、やっちゃったあ突き指、痛い、痛い。しかし大会直前、こんなことで断念するわけにはいかない。痛みをこらえて出場し、大活躍、112チーム中ベスト16の好成績だった。しかし、指の腫れがなかなかひかないので検査を受けたらなんと骨折していた。即日手術、針金で繋いだらしい。片やのんびりムードの松本先生、ちょ

っとしたグルメだ。

11月初旬、カニのシーズン到来とのことで早速越前へ出かけたが、到着してみるとどうも様子がおかしい。

それもそのはず、カニの解禁は3日後だった。折角越前まで来たのに、奥様の冷たくも真っ赤なレーザー視線に捕捉され、さすがのレスリングマンも動けず小さくなってフォール。とんだハサミ足いや勇み足だった。

こちらは奥様と一緒に週末ことに近郊の山々を散策している安藤裕紀先生。ある日、いつもの様に二人仲良く山中を散策中、ある人とぼつたり遭遇。なんとキャリアセンターの尾上先生、ご夫妻で、こんな所でなんと偶然。

日頃の忙しい業務から離れて、生活のリズムに変化をつけられ、また明日からの仕事に活力が湧く。心身共にリフレッシュでき、健康のためには最適だ。

一方、その健康のためタバコが欠かせないのが村瀬徳高先生。

煙を吐きながら早足で歩く姿はまさに蒸気機関車そのもの。力強さを感じさせる。

ところが、突然の入院騒ぎ。幸いにも健康を取り戻し3週間後に職場復帰。

健康の有難さを感じつつ、入院中に辛かったことは何かといえは、タバコが吸えなかったことらしい。

「これを機会に禁煙？」の質問に「やる気はない」ときっぱり。

流石だ。蒸気機関がエコーロジ機関に変わるのはいつのことやら。

流石といえは池戸先生、何が流石なのかは解らないが、彼はサブマリンという異名を持つ。

作戦を明かさず、深く静かに潜行し続け、いきなり浮上してくる。ぐるっと周囲をレーザーレータで探索してまた潜る。潜行中は黙々と仕事をこなしているよつだが、何をしているのかは全くわからない。謎のミッションらしい。

体育祭に謎の生命体現る。今年も晴天に恵まれ、各チーム優勝目指して全力疾走する中に、あることがカマキリが走っている。あれは何だ？。応援席からどよめきが沸き起こる。地球外生物の襲来か？グランドはパニック寸前。

が、全力で走っているもの、どうも様子がおかしい。喘ぎ喘ぎ、よるめきながら走っている。

地球の重力には勝てないと見た。警戒しながらよく観察してみると、それはカマキリに似た浜本先生だった。

何でそこで走っているの？

ディーゼル好きのK林先生はディーゼルエンジンの、イエースに乗って世の中に真っ黒けの排ガスをぶちまけて爆走してきた。

坂道で、この車の後についていたら大変黒煙がとぐるを巻いて襲ってくる。この車に乗ると、エコーロジのエンジン音とアクセルを踏んでも踏んでも前に進まない状況にイライラする。

「この真っ黒野郎」と、皆から罵られ、泣く泣くガソリンエンジンの、オクシに変えたのだが、本人は音が静かだからエンジンが軽やか過ぎるだとか、愚痴がうるさいらしい。K林先生、お静かに。あなたの我慢が地球環境を守る。

ナチュラリストの松岡先生が小学生の息子と力ヌーで長良川激流下り。二人艇の前に息子、後に父親、なんと微笑ましい光景。息子は初めての力ヌーを楽しみにしていた。

一級の瀬に差し掛かったとき、息子は前から襲い掛かる飛沫に悲鳴をあげた。でも大丈夫、父親が守ってくれ、と思った瞬間、後頭部に火の出る様な衝撃を受けた。バランスを失った父親のパドルが空を切り、息子に命中したのだ。最大の味方を失った息子に恐怖の戦慄が走った。息子は後で知った。父親も力ヌーは初めての経験だったということ。

みなさん、体にいいこと、地球にいいこと何かしてますか？。(優良可)

ちんきどちんき 自慢はなし

『デンキ、ゲンキ』

すみませんでした。今年もやってしまいました。電気設備学科の各クラスは体育祭において、上位独占してしまいました。10位以内に全7クラスが入りました。今年、各科対抗縄跳びで惨敗をしただけに厳しい情勢でしたが、終わってみればタントツの優勝でした。縄跳びもなんのそのですわ。いやー、ほんと申し訳ない。昨年もおんなじこと言ってたようにながしますが……。

勝因は走る部門で他を寄せ付けなかった点にあります。クラス対抗リレー決勝をワン・ツー・スリーと独占で電気各科が駆け抜けました。何かエネルギーが炸裂しているようで、体育祭では何連勝しているでしょう。なんか、身内の戦いになっていますが、どこかお相手をお願いします。

しかし、電気は毎日走ってばかりいるわけじゃないんですよ。学園祭でも未来の乗り物と言われるセグウェイの試乗会や、ストライクアウトの6号館実習室でのリニユーアル実施などなど、文武両道

といいますが、勉学面でも今年も電験三種合格者が50名で、取得者は64名となりました。

全国各地から学生が集まっており、今年も調理師免許を持って電気の道に飛び込んできた学生もいます。

就職も好調で、中部電力に7名が、中部電気保安協会にも4名が決まりました。他、JR東海や名鉄、住友軽金属工業、日本電設工業、トヨタテクニカルデベロップメントなどです。

新規設備の導入も進んでいます。6号館3階に第二実験室を設け、太陽光発電実験装置、燃料電池発電装置、風力発電実験装置を設置して今後の変化していく電力供給体制に追従していける電気技術者の育成に励んでいくつもりです。

(新アンシエンマン)

『対外イベント』

今年も様々な対外イベントを実施してきました。普段の授業では得られない、緊張がそこにはあります。限られた時間

に計画、機器の設置、本番等どれも絵に描いた餅ではなく形になって現れます。

もちろんその主役はサウンドライティング、放送クリエイティブの学生スタッフです。イベントの規模によりますが、1ヶ月以上前から、授業後を使って打ち合わせ、リハーサルを繰り返すこともあります。2年生はある程度経験済みなのであまり問題ありませんが、また1年生は自己中心的な考え方が抜けず、相手に合わせるという考え方がなく、学生同士で衝突することがあります。きっかけは本場に些細なことですが、人間関係にまで発展することがあります。それでも、イベントの開催日は確実に、迫ってくる

こと、相手からのクレーン対策や一人では何もできない現実等、身を持って体験することになります。それ以降は、お互いの立場を理解し、成功に向け準備を行います。

(中性脂肪マン)

『日本ゲーム大賞2008』

優秀賞受賞

国内でリリースされたゲーム作品の中

から、優れた作品のみが受賞する「日本ゲーム大賞」今年度のアマチュア部門」

において、ゲームサイエンス科3年在籍の稲垣謙君が優秀賞を受賞しました。日本ゲーム大賞は、ゲームのコンテストとしては国内最大で、ミリオンヒットしたタイトルからアマチュアの作品まで評価の対象となっており、年に一度、東京ゲームショウの会場で発表・表彰される注目のイベントです。アマチュア部門においては、全国から審査対象となる作品が集められ、業界関係者による厳選な審査のもと、授賞作品が決定されます。多くの作品が審査対象となりますが、受賞する作品は10作品と少なく、ノミネートされる佳作をいただけるだけでも大きな成果とされています。そのような審査の中、今年度は優秀賞を受賞することができました。受賞は、東海三區下では工學院のみで、携帯電話用のゲームとしては国内唯一の受賞となりました。ゲームは頭の中のイメージをプログラム言語を通じて画面に再現していく日々の努力の積み重ねでできています。その積み重ねが審査員の目に止まり、今回の優秀賞に繋がっていきました。学生たちは、放課後、実習室で作品を作り続けております。彼らの努力が積み重なり良い結果がでることを切に願っております。

(トリプルクリック)

『ライブ授業』

情報学科では、ライブ授業に取り組んでいます。ある教室で行っている授業を、他の教室にライブ配信しプロジェクトに映し、同時に授業を受けるといったものです。

ライブ授業の導入により2つの効果が期待されています。ひとつは、カリスマ教員の授業を多くの学生が受けられることです。この科目を教えさせたら右に出る者はいないという先生は、どの学科にもいると思います。しかし、その先生の授業を受けることができるクラスは限られています。ライブ授業なら、多くのクラス、より多くの学生がカリスマ先生の授業を受けられるのです。

効果のふたつ目は、授業を保存できることです。配信した映像をそのまま保存しておくことで、あとから授業を見直すことが可能です。就職試験などで授業に出られなかった学生も、保存された授業を見れば、授業に遅れることもありません。もちろん、試験前の復習にもってこいです。

授業を配信するにあたり、従来の授業の方法と変更しなければならぬ点も多くあります。たとえば、板書をカメラで撮って配信したのでは、字は読めなくなってしまう。そこで、パソコン上に資料を作り、プロジェクトでその資料

を映し、さらにそこに書き込み、説明をしながら授業を進めます。配信する映像もパソコンの画面を中心に配信します。授業方法にパラダイムシフトが必要でした。

またまた、取り組みを始めたところで、導入も一部の授業のみです。トラブルもありますが、それらを一つずつ解消していった、より高い効果を出せるように工夫しながら進めていきたいと思っています。

(ケイトパパ)

『電子・デジタル家電分野の話題』

まず、重要な継承事項でもある就職内定状況。専門学校において、就職内定状況は、学校の評価を決定する大きな要因の一つです。景気の局面が、なかなか厳しい社会情勢の中、優良企業から多数が内定をいただき、なんと電子情報研究科は、夏休み前に就職活動を終了。デジタル家電科も内定率100%を達成しました。残る1クラスも、順調に内定率を伸ばしています。

次に、『工事担任者A・I・D・D総合種』

の認定講座の話題を一つ紹介します。総務省より認可され、平成20年度から継続する認定講座も今年度で9年目に入りました。この認定講座により、ほぼ6ヶ月間の勉強で情報通信技術者として是非とも欲しい価値ある資格が取得できるよう

になりました。講座といっても通常の授業が講座として認定されているのです。

平成20年度の電子情報学科2年生全員が、この資格を取得しました。今年度も電子情報学科1年生全員が、資格取得を目標に頑張っています。将来の情報通信技術者を目指してガンバレ！

(デジデジ)

『マイクロマウス全国制覇』

振り返り

ロボット・メカトロニクス分野のメインテーマの一つが、マイクロマウス技術。小さいけれど、2.9メータ四方の複雑な迷路を数秒で駆け抜ける最新技術の集合体の知能ロボットです。

そのマイクロマウスが全国マイクロマウス学生大会で3年ぶりに11度目の優勝に輝きました。

ロボットの技術は日進月歩、新しい技術が取り入れられ、形はどんどん小さくなり、重量も100グラムそこそこと小型軽量化が進んでいます。

迷路の壁の高さより低くなり、走る姿が見え隠れし、本物のねずみのようです。ハードとソフトの二刀流で鎧を削る戦いが繰り広げられるのです。

我校は平成17年まで9年連続の優勝という実績を誇る恐れられた存在であり、全国のチャレンジャー達が「打倒！名古屋」を合言葉に、挑みかかってくるため

に、受けて立つ方も大変でした。

勢いに押されて、平成18・19年と2年連続で2位に甘んじることになってしまいました。

そこで、このままでは王者としての面目が立たないと奮起したのが、本年度のメカトロニクス研究科の卒業研究マイクロマウス班の3名の学生です。

先輩たちの長年にわたり蓄積された膨大な資料を基に、今年さらには進化させた新型マウスを完成させました。

重量130グラム、硬度・弾力性に優れた新素材のシャーシに、動力用のモータ(足)、光を検出するセンサ(目)、バッテリー(心臓)、状況を判断・記憶するマイコン(頭脳)が小さなスペースに効率よく納められています。

精度はまさにマイクロのオーダーで設計、製作、組み立て、そしてプログラムミング。どれひとつとして手が抜けません。こうして出来上がったマウスで全国の舞台上に立ち、スタート直前の走行モードの設定、センサ調整のために手は緊張に震えます。

エントリー台数75台、迷路完走24台。そして3名の結果は、優勝、第4位、第5位と大健闘

栄えある全国制覇を達成した喜びはひとしお、これからも精進していきます。

(ロボ吉)

平成二〇年度

母校のおもなできごと

昨年は8月に北京オリンピックが開催された。チベット問題、四川省の大地震に汚染ミルク、世界中の視線が中国に集まった。オリンピックでは開会式のクチバク少女が話題になったが、やはり水泳「有言実行」北島選手の快挙に多くの人が感動したのではないだろうか。今年度の工学院にも多くの感動があった。

- 4月10日(木) 第77回入学式
- 4月11日(金) 始業式
- 4月20日(日) 情報処理技術者試験
- 4月25日(金) 第一回昇人会
- 5月16日(金) 第一回・企業説明会
- 5月25日(日) 工事担当者試験
- 5月31日(土) 東海地区保護者会(卒業クラス)
- 6月5日(木) 第二回企業説明会
- 6月7日(土) 第二種電気工事士技能試験
- 6月8日(日) 第一種電気工事士筆記試験
- 6月8日(日) 映像音響処理技術者資格認定試験

- 6月14日(土) 寮對抗球技大会/毎年、寮生の親睦を図るために開かれるボリング大会。会場は名古屋エースレーン。優勝・木原大輔君(明治寮)。準優勝・日置孝幸君(明治寮)
- 6月15日(日) 第1・2級CAD利用技術者試験
- 6月19日(木) 中部電気産業育英会就職相談会
- 6月21日(土) 校友会支部長総会/平成20年度5月に新設された「功労賞授与の基本方針」に従って、次の3名の方が功労賞を授与されました。

- 三浦耕一さん/平成16年度を以って大阪支部長を退任。10年以上に亘り大阪支部の活動を支えていただきました。
- 山口 勇さん/平成17年度を以って富山支部長を退任。10年以上に亘り富山支部の活動を支えていただきました。
- 内山長久先生/前年度を以って会計監査を退任。過去に校友会会長としても在任していただきました。
- 6月29日(日) サウンドレコーディング技術認定試験
- 7月5日(土)~7月21日(月) 教育懇談会/県人会担当教員が各地区へ

- 赴き保護者との面談を行った。(会場/長野、松本、飯田、那覇、名護、宮古、富山、金沢、福井、長浜、沼津、静岡、浜松、高山、尾鷲)
- 7月15日(火) 16日(水) 第一級陸上無線技術士試験
- 7月17日(木) 18日(金) 第二級陸上無線技術士試験
- 7月24日(木)~31日(木) 前期末試験
- 7月27日(日) 第一種電気工事士技能試験
- 8月2日(土) エネルギー管理士試験
- 9月6日(土) 第一種・第二種電気主任技術者試験(一次試験)
- 9月7日(日) 第二種電気主任技術者試験
- 9月7日(日) 第23回マイクロマウス中部地区初級者大会/マイクログラウス競技

- 優勝 杉浦光将(メカトロニクス研究科)
- 準優勝 佐藤達也(メカトロニクス研究科)
- 優勝 山田真裕(メカトロニクス研究科)
- 支部サーキット競技
- 優勝 山田真裕(メカトロニクス研究科)
- 準優勝 杉浦光将(メカトロニクス研究科)

ロボトレース競技
特別賞

- 松岡真央(ロボット科2年B組)
- 9月14日(日) AV情報家電・生活家電エンジニア・アドバイザー試験
- 10月4日(土) 第一種電気工事士技能試験(筆記免除者)
- 10月5日(日) 第一種電気工事士筆記試験
- 10月9日(木)~12日(日) 東京ゲームショウ出展/今年のゲームショウはビジネステイを含めて4日間の開催となった。20万人近いゲームファンが来場。本校のブースにも多くの方々立ち寄り、学生作品に夢中でプレイする姿が印象的だった。



10月11日(土) 日本ゲーム大賞2008
アマチュア部門ノ
優奏勝

「Softopia」稲垣 謙(ゲームサイエ
ンス科3年)

10月18日(土) 東海地区保護者会(進
級クラス)

10月19日(日) 情報処理技術者試験ノ
テクニカルエンジニア(ネットワーク)

試験に1名(県内の専門学校生合格者8
名)、情報セキュリティアドミニストレ

ータ試験に3名(県内の専門学校生合格
者5名)、ソフトウェア開発技術者試験

に12名(県内の専門学校生合格者37名)
が合格した。

10月21日(火) 体育祭ノ今年も体育
祭日和。鶴舞競技場に学生達の歓声が響

きわたった。優勝は電気工学科2年B組
(担任:右原先生)



優勝した電気工学科2年の石原軍団

10月25日(土) ゲーム・CG関連特別

講演会「テイルズオブシリアーズ開発秘
話」ノ毎年、学園祭の開催に合わせて、

実施されるこの講演会。今回は、プロデ
ューサの仕事やゲーム業界の市場規模

について、さらに、ゲームをビジネスと
して成功させるための工夫についてお

話しいただいた。
10月25日(土) 26日(日) 学園祭ノ今
年で38回を迎えた名学祭。テーマは、祭



「祭」を盛り上げた名学祭実行委員のメンバー

10月26日(日) マイクロマウス中部

地区大会
10月30日(木) 第20回愛知県専修学
校各種学校連合会卓球大会出場

11月3日(月) 第23回全日本学生マ
イクロマウス大会ノ早稲田大学で行わ

れた本大会において、名古屋工学院専門
学校は11度目の優勝で全国を制覇した。

優勝

山田真裕(メカトロニクス研究科)
4位

杉浦光将(メカトロニクス研究科)
5位

佐藤達也(メカトロニクス研究科)



11月3日(月) 産学連携・日本ソフ
ト販売株「宛名ガキ大将」ノ「年

賀状大先生2009」イラスト作成ノ
優秀者ノ木本祐介(マルチメディア科2年)

11月16日(日) 第1・2級CAD利
用技術者試験

11月22日(土) 23日(日) マイクロマ
ウス2008ノつくば国際会議場

11月23日(日) 工事担任者試験

11月30日(日) 第一種・第二種電気
主任技術者試験(二次試験)

12月7日(日) 第一種電気工事士
技能試験
12月19日(金) 愛知デジタルコンテ
ンツコンテスト2008

動画部門入選

木下 亮(CGクリエイティブ科3年)
静止画部門入選

原田和明(CGクリエイティブ科2年)
12月22日(月) 23日(火) 第17回全
国専門学校ロボット競技会ノ大田区産
業プラザ

自律型ロボットハードウェア部門
準優勝

今津幸宏(メカトロニクス研究科)
後藤和生(メカトロニクス研究科)

有線型ロボット競技
準優勝

都築富也(メカトロニクス研究科)
藤田翔紀(メカトロニクス研究科)

自律型ロボットソフトウェア部門
優秀ソフトウェア部門賞

松岡真央(ロボット科2年)
1月15日(木) 第2回県人会

1月20日(火) 21日(水) 第1級陸
上無線技術士試験

1月22日(木) 23日(金) 第2級陸
上無線技術士試験

1月27日(火) 2月2日(月) 卒
業試験

2月6日(金) 13日(金) 進級試験

3月9日(月) 茶話会

3月10日(火) 卒業式
3月15日(日) AV情報家電・生活
家電エンジニア・アドバイザー試験

3月19日(木) 20日(金) 熱田の森
ロボット競技会

かもめ発行 第50号に寄せて

かもめが飛んで五〇号

電波学園・教職員OB会

掛布 知伸

突然の電話に驚く。校友会長から会誌『かもめ』の寄稿依頼を受ける。会誌の刊行が次回で五〇号になる由だった。

思わず本棚に眼をやった。学園五〇年史の厚本が鎮座している。いつか熱田区図書館でこの本を見たとき、妙に感動した記憶。今でも訪れる度に背表紙の文字だけは必ず見るようにしている。五〇年史の編集に携わったからである。

私が工学院勤務を始めたのは、名古屋高等無線電信学校時代の昭和三三年だ。配属は就職係で五人が担当していた。係では同窓会誌『鷗』の編集もやっていて創刊は同一九年だったと聞いていた。

当時は無線通信士の育成が主だった。就職先も商船や漁船などの船舶通信士が最多で、電子系では放送局、技術系公務員、メーカー、テレビ技術がそれに続いていた。私は無線通信士の担当だった。就職係は同窓会組織に属し、斡旋のすべてを運営していた。

採用されて直ぐのこと…。隣席の先生のいる最下段の引き出しに、原稿の束が見えた。「何です?」と取り出したが卒業生が書いたと思われる原稿はか

り。「同窓会誌の編集をしなきゃならんが、忙しくて」とS先生。少し寄稿文を読んでみた。乗船中の通信業務の様子、外国へ上陸して見聞したこと、放送局や官公庁、企業での体験記ばかり。反射的に「私やりましょ」と言ってしまった。私も船から降りたばかりだった。「編集をやったことあるか?」と問われたが、まったくの未経験だった。

同窓会誌が『鷗』だった理由が、これで理解いただけだろうが。無線通信士から船舶、海、さらに『鷗』となった。やがてイメージの柔らかさを求め、漢字から「ひらがな」の『かもめ』へと移る。いつの間にか『かもめ』の企画、原稿執筆、推敲、レイアウトから印刷……

と、任せられるようになり授業を持ちながら業務が増えていった。担任も昼間部の二クラスと夜間部、合わせて三クラス持っていたが、こうした教員は多かった。

ふと、疑問がよぎった。昭和二九年が創刊号なら毎年出していれば五四号のはずだが、疑問は直ぐ解けた。

あの頃は原稿の都合で、一年分をまと

めて発行したことが二、三度はあった記憶がある。最たるものが伊勢湾台風。何日も身動きが取れず、当然、原稿に限らずすべて流されてしまった。これで私なりに筋が合った。

教員とはいえ編集に対して、所詮、素人の集団である。家にゲラを持ち帰り徹夜して校正したことが何回もあった。今では理解されなかつたが、当時の印刷はすべて活字組み。逆さ文字、横向き文字がゲラになって手許に戻って来ていた。

知る人ぞ知ることだが、『かもめ』はある時期、印刷会社ではなく、名古屋刑務所に頼んでいたことがある。受刑者の矯正教育として活版印刷を習得させる目的で、価格が格安だったから。あの場所は今、吹上ホールになっているが……

刑務所の教育部所属の夜間部・K先生の口利きによるものだった。相手の受刑者も素人だから、ゲラ稿の校正には大弱りの年が続いた。

「かもめが飛んで五〇号か……」。原稿用紙に向かいながら思う。昔の時間が矢継ぎ早に通り返ける。在職は四五年間だった……と、来し方を見つめる。執筆を依頼されたら直ぐ受託する悪癖は、若い頃と同じだと、自ら苦笑してしまいます。次は一〇〇号を目指して欲しい。五〇号か……。かもめはよく飛んでくれた。

同窓会誌 創刊号

今、私の手元に同窓会誌の創刊号がある。現校友会会長の倉田先生にお借りした貴重な一冊だ。発行日は昭和29年7月1日となっており、B5サイズのわら半紙で作られた冊子に、当時の先生や学生達のさまざまな思いが綴られている。昭和29年といえば、「電波法」と「放送法」が施行されてまだ4年、NHKと日本テレビが開局した翌年にあたる。さまざまな分野での電波利用が期待されるさなか、高等無線電信学校が無線通信技術の聖地として、全国にその名を知らしめんとする当時の職員や学生たちの息遣いが伝わってくる。

その中の一編を巻末に掲載した。50年後の未来を想像して書かれた作品だが、携帯電話や海外放送など既に当たり前となったことが記されている。

(零式)



【特筆すべき学生】

最近の工学院で特筆する学生のコメントを挙げました。後輩の頑張りを讃えて下さい。

難関突破

電気工学科 首藤正樹君

電気工学科の学生は、将来、社会で活躍できる技術者を目指して毎日、補習、補習、また補習の学生生活を送っています。本校5号館の4階と5階が電気工学科の教室ですが、ここには学生たちの怒涛のエネルギーが渦を巻いて教員に立ち向かっています。これは、電気技術者の資格でも難関といわれる電験三種を取得する為、日々研鑽に励んでいるからです。取得した学生たちの就職先の指標となる中部電力㈱に19年度は9名が20年度では7名が内定しました。資格は、2年生でないと取得することが難しいのですが、1年生でも稀に合格者が出ます。今回、その一人が首藤正樹君です。愛媛県の松山工業高校出身です。いろいろな事情が重なり高校は4年をかけて夜間部を卒業しました。しかし、すぐ就職ではなく彼はチャレンジすることに決めたのです。そして、工学院への進学を決め、新聞奨学生として新たな一歩を踏み出したのです。新聞奨学生と学業の両立は図らずとも苦難が待ち受けてい

ました。しかし、彼は入学半年で見事に合格を手に入れたのです。朝は二時半起きで、寝る間を惜しんで血の出るような努力をしたのです。今年度の合格者50名、それぞれに努力の跡あり、心より拍手を送りたいと思います。



新聞奨学生で難関突破
首藤正樹君（愛媛県松山工業高校出身）

「留学生の活躍」 ゲームプログラミング科

孫 純一君

国際化が進む中、工学院にも留学生が増えつつあります。今回、ご紹介する孫純一君もその一人。孫君は中国の上海水産大学を卒業後、名古屋大学大学院で日本語を学び、本校に入学した留学生です。大変な努力家で、ステークハウスとビジネスマン相手の中国語講師を掛け持ちし、勉学に励んできました。どうしてもゲーム会社に就職したいという夢を持っており、何度も就職試験で不採用になりながらも、決してあきら

めることなく就職活動を続けました。その甲斐あって、希望通りゲーム会社に内定することができました。孫君がクラスメイトに与えた影響は少なくありません。留学生から学べる事は学び、お互い切磋琢磨したいものです。

デジタル家電科のホープ

デジタル家電科 尾嶋佑亮君

デジタル家電科は、資格として主に「家電製品エンジニア試験」の取得を目標にしています。「家電製品エンジニア試験」は、家電製品の構造や原理などの知識が求められ、修理の際に役立つ資格です。その他に、家電機器の商品知識や省エネ・環境・製品安全などの法規について問われる「家電製品アドバイザー試験」の取得も目標にしております。このほかに、デジタル家電科では陸上特殊無線技士の資格は認定講座により取得することも可能となっています。

授業はこれらの資格を取得するカリキュラムが進められるものの、取得者は半分程度です。デジタル家電科のホープ尾嶋佑亮君は、一度も不合格になることなく、家電製品エンジニアと家電製品アドバイザーの試験に合格することができました。これは、授業で学んでいないところも自分自身で勉強して対応していた尾嶋君の努力の結果です。その後、休むことなく努力は続けら

れ、第1級陸上特殊無線技士にも合格することが出来ました。

デジタル家電科は実習の授業も多くあり、オーディオやテレビ実習、回路製作実習、計測実習などの実践的な実習授業が行われます。その中でも尾嶋君の活動には、目を見張るものがあり、現在では自分自身で回路を作成し、動作を確認していくまでの実力を身につけました。今後は、研究科に進学し、工事担任者DD第1種試験やその他の資格にチャレンジしていくつもりです。

例年、デジタル家電科の学生はパナソニック(株)などの家電メーカーの修理部門に多く内定しています。尾嶋君も多くの先輩と同様に家電メーカーの修理部門に進むことを希望しています。自分自身の実力を希望する業界で十分に発揮できるように、これからも努力と活動を続けて成長してほしいと期待しています。



努力が結果に
尾嶋佑亮君（愛知県刈谷東高校出身）

『五十年後の夢』

電波に結びつけて

昭和七十七年六月一日

江芦っ子が日帰りで奈良見物――

国電・国鉄は昔の話

起きて時計テレビ(何時でも正確な時計現れる)のスイッチを捻じると九時一分過ぎだ。家内から子供たちを連れて原子ロケット飛行バスで奈良に来て、大仏を見て少し散歩。その後、奈良ホテルで夕食をとって二時頃には帰ると無線電話(携帯用の小型無線電話でどこへでも電話が出来る)がかかってきた。初夏の奈良公園は新緑で素晴らしい気分だといふ。

銀座でやっているフランスの新旧大家の絵画展が見たくなったので西荻窪の急行バスに乗る。四・五十年前までは国電というものに乗って各駅の間を二・三分もかかって銀座まで一時間も要したと親父が時々昔語りをしていたことを思い出す。

今は昔の国電、国鉄を全部ダブル道路(二階式道路で下は往、上は復)にして高速度原子車が走るようになってから各駅間を五秒、停車時間二十秒という速さ、銀座(有楽町)までは西荻窪から七分くらいしかかからないとは、まったくスピード時代になったものだ。四・五十年前の人がこれを聞いたらさぞ驚くことだろう。

展覧会場には一九五〇年前後の大家であるマチス、ピカソ、ルオー、ユトリ

口、その他の立派な絵が揚げられていた。また、現代画家としては、カリス、プカソ、リオーそしてオトリロなどの傑作があった。やはり、テレビで紹介されたものよりも実物を目の当たりに鑑賞するほうがいい。

六月七日

香料放送機の出現――

寝覚めに少々頭が重かったので香料放送機(数千種類の匂いの放送)で十分間オゾン吸って心身爽快。十時、巴里放送「セーヌの河の上、巴里は光る」(無論総天然色)の映画を観る。まったく巴里は美しいな(女性は言つに及ばず)。七彩のネオンが巴里全市をきらめかし、新エッフェル塔(一九九〇年新造で高さ二〇〇メートル、旧エッフェル塔は三〇〇メートル)の頂上から、これも七彩一億燭光のサーチライトが回転照明を投げている。五〇年前、親父が行った頃はまだまだちろん旧エッフェル塔時代で、それでももう現在の十分の一くらいは光力だったがネオンはあつたぞうだ。しかし、現在のものに較べると月とスツポンの有様である。

この映画に出てくるミスタンゲット四世、ジョセフィン、バケル五世などの美しき、声のよき、歌のうまさ、踊りの素晴らしさなど全く大したものだ。来月早々二泊の予定で巴里に行くことになっているが、またオペラでも一晩ゆっくり見物することにしよ。

六月十日

月の世界の探検――

午後六時、アメリカ放送の月世界探検原子機の報告映画を観る。月世界探検は一〇〇年前から想像小説なども出ていたが、目の当たり月世界の地面を妙な帽子を冠って歩き廻る人達を見、隕石の落下の跡や、噴火口の実景、月世界から見た地球など見ると、自分がお伽の国に遊んでいるような錯覚を起してしまふ。遠からず火星まで行っている原子機が帰ってくるというから、それを見るのが今から楽しみだ。

同窓会誌

昭和29年発行創刊号より



編集後記

たしか中学生の頃だったと思う。父が「かもめのジョナサン」という本を買ってきた。もちろん自分が読むつもりで買ったのだ。

当時の私は、本を読むことが苦手だった。だから、父が買ってくる本のあまり関心を持たなかった。しかし、この本だけは違った。写真が多かったのだ。

「ジョナサン・リビングストーン」この物語の主人公だ。勿論、かもめ。仲間のかもめが漁船の上に群がり、網からこぼれた魚を奪いあい、腹を満たすことに明け暮れているのを横目で見ながらジョナサンは、持って生まれた「翼」を活かし、より速く飛ぶ方法を探求し、毎日自分の限界に挑み続けるといった奇行を繰り返していた。ついには、仲間から異端視され群れから追放されてしまふ。それでもジョナサンは、飛び続けた……。

物語は「かもめ社会」の出来事だが、「人間社会」に当てはめると、いろいろなものが見えてくる。

毎日毎日あたりまえのように繰り返えされる決まりきった生活の中で見失いがちな大切なもの。周囲に流されつつも、目指すべき先をしつかり視界に入れ一途に暮らしていきたい。

(零式)